

目次

はしがき

序章 冷戦前史

——一九世紀後半から第二次世界大戦までの世界と超大国米ソの出現——
益田 実…… 1

1 冷戦の起源とその二つの側面

冷戦の二つの側面 イデオロギー対立としての冷戦の起源 国際システムとしての冷戦の

起源——大陸国家米露の膨張 冷戦の舞台としての近代国際社会の形成

2 米ソの登場と世界の変容——一九世紀後半から第一次世界大戦まで

資本主義大国アメリカの発展と国際的な台頭 帝政ロシアの体制内矛盾の増大と社会主義政

党の出現 第一次世界大戦の勃発 アメリカと第一次世界大戦 ロシア革命とソ連の誕

生 第一次世界大戦がもたらした変化

3 戦間期の世界と米ソ両国——相対的安定から危機の時代へ

一九二〇年代の米ソと世界 戦間期米ソのイデオロギー的対立 資本主義の危機への異な

る対応 一九三〇年代の国際危機

4 第二次世界大戦の勃発と大同盟の形成

開戦から独ソ開戦、アメリカ参戦まで 米ソの戦争遂行、ヨーロッパ植民地支配の動揺

第二次世界大戦の経験が米ソ両国にもたらしたもの

5 本書のねらいと構成 26

本書のねらい 本書の構成

ロングコラム1 「冷戦」という言葉の起源と冷戦史研究の系譜……………益田 実…30

第1部 冷戦の始まりから東西両陣営の構築まで——一九四〇年代後半～一九五〇年代後半

第1章 ヨーロッパにおける冷戦の始まり……………橋口 豊…35

——第二次世界大戦終結から一九四〇年代末まで——

1 第二次世界大戦の終結 35

「転換点」としての一九四三年 首脳外交の本格化 中欧とバルカン諸国をめぐる大同盟

内の確執 戦後国際秩序の模索 枢軸国の敗北

2 第二次世界大戦と近代性^{モダニティ} 46

近代性の負の側面とその究極の形態としての戦争 近代性の負の側面の克服と継続

3 占領管理体制と東西関係の悪化 49

戦後のドイツと日本の占領管理体制 大國間協調の模索と「鉄のカーテン」

4 ヨーロッパにおける冷戦 53

ヨーロッパ講和問題とトルーマン・ドクトリン マーシャル・プランと東西ヨーロッパの分

断 ヨーロッパにおける冷戦対立の深刻化

コラム1-1 近代性とは 47

第2章 東西冷戦構造の構築からグローバル冷戦の開始へ……………鳥潟優子…60

コラム1-2 高度な民族的均質性を持つ国民国家の成立 49

1 一九四八年——ヨーロッパをめぐる冷戦認識の形成と冷戦の開始 60

冷戦構造の創造 東西両陣営の体制の形成と冷戦認識の確立 団結した西欧の形成——

「ドイツの脅威」から「ソ連の脅威」へ ソ連陣営の対応

2 グローバル冷戦の萌芽 69

アジアにおける脱植民地化と冷戦のせめぎ合い 中華人民共和国の誕生と反共防波堤として

の日本 朝鮮半島における「民族統一戦争」としての朝鮮戦争？

3 西側安全保障体制の形成 76

日本の講和と「再軍備」からアジア太平洋秩序の形成へ 世界大での西側世界の統合の試み

と「第三世界」の登場

4 革命から国家建設へ——開発の時代の幕開け 80

国家建設と経済的な「独立」の模索 資本主義世界の統合の試み

5 スターリンの死と東西両陣営による共存の試み 83

スターリンの死と東側陣営の亀裂 脱スターリン化したソ連の世界戦略の再構築とアメリカ

コラム2-1 朝鮮戦争・インドシナ戦争を日本人はどう見たのか 75

コラム2-2 平和のための原子力 87

第3章 欧州統合の起源と冷戦……………小川浩之…90

—一九四〇年代末～一九六〇年代初め—

1 復興から統合へ——OECCとシューマン・プラン 90

OECCの設立 マーシャル・プラン援助 欧州石炭鉄鋼共同体 (ECSC) と超国家的

統合の始まり

2 ローマ条約と欧州経済共同体 (EEC) 99

「ヨーロッパの再発進」 EECとEURATOMの成立

3 アイゼンハワー政権と冷戦・欧州統合の展開 104

アイゼンハワー政権の冷戦政策 アイゼンハワー政権の欧州統合政策

4 冷戦史における欧州統合の意義 108

福祉国家体制の構築と欧州統合 グローバル化と新自由主義の拡大

コラム3-1 連邦主義的な欧州統合の系譜 97

ロングコラム2 冷戦期のインド外交……………三宅康之…113

第II部 冷戦対立の最盛期——一九五〇年代後半～一九六〇年代半ば

第4章 東西陣営の安定化と中南米・中東・アフリカの脱植民地化……………池田 亮…117

—一九五〇年代半ば～一九六〇年代半ば—

第5章

危機と緊張緩和のはざままで

……… 青野利彦… 140

——核戦力と宇宙をめぐる競争と協調、一九五〇年代後半～一九六〇年代末——

1 核をめぐる東西関係と同盟内政治 140

核軍拡競争の始まり スプートニク・ショック 「拡大抑止の信頼性」をめぐる議論と独

自核保有の動き 核拡散問題への対応——「核共有」と核実験禁止交渉

2 アイゼンハワー政権と東西危機 146

第二次台湾海峡危機 ベルリン危機 宇宙開発競争と冷戦

1 東西両陣営内の亀裂と安定化 117

スターリン・ノートとスターリンの死去 ジュネーブ首脳会談 スターリン批判とハンガ

リー動乱 ソ連の対第三世界外交と西側陣営

2 ラテンアメリカにおける冷戦 124

アメリカの介入とキューバ革命 ラテンアメリカ情勢の安定

3 中東における冷戦の波及 127

中東と冷戦 イスラエル建国とイラン石油危機 ソ連の進出とスエズ動乱(第二次中東戦

争) 六日間戦争(第三次中東戦争)

4 アフリカの脱植民地化と冷戦の波及の開始 132

アフリカ植民地の独立 アルジェリア戦争とコンゴ動乱

5 冷戦の雪解けと脱植民地化 136

コラム4-1 ハンガリー動乱の余波 123

コラム4-2 イスラーム政治思想 131

3 ケネディ・フルシチョフとグローバルな冷戦危機 149
高まる緊張 宇宙空間での競争 緊張緩和の模索 キューバ・ミサイル危機 キュー

バ危機後の米ソデタント ケネディ・フルシチョフ時代の終わりと米ソ宇宙協力の終焉

4 戦略的安定の模索 157

相互確証破壊戦略 米ソ軍備管理交渉 核不拡散条約の締結 冷戦と核兵器

コラム5-1 「核」に対する人々の不安 145

コラム5-2 フルシチョフのアメリカ訪問 149

第6章 冷戦の社会的影響…………… 齋藤嘉臣… 163
——一九四〇年代後半—一九六〇年代末——

1 戦後アメリカにおける「国家安全保障国家」の構築 163

分裂するリベラル派 「赤狩り」とマッカーシズム 「国家安全保障国家」の構築

2 戦後ソ連におけるスターリニズムとその変化 168

戦後スターリニズムの展開 「雪解け」の進展と限界

3 西側諸国における消費主義の影響 173

「生産性の政治」と消費主義 西側各国における消費主義の受容

4 ソ連における消費主義の影響 176

スターリン期の消費主義 フルシチョフ期の「平和的競争」

5 変容の時代へ 178

公民権運動からカウンターカルチャーへ 抑圧と抵抗の間

コラム6-1 アメリカ博覧会とキッチン論争 179

ロングコラム3 冷戦期と「スパイ」……………三宅康之…188

第三部 多極化から緊張緩和へ——一九六〇年代半ば〜一九七〇年代半ば

第7章 多極化する世界……………三宅康之…193

1 中ソ対立 193

——一九六〇年代における冷戦構造の変動——
 対立露呈に至る経緯 大躍進運動とその挫折 中ソ対立の公然化 対立公然化後の展開

2 西欧の多極化 201

ドゴール外交 西ドイツの経済成長 「同盟の将来に関する研究」(アルメル研究)

3 非同盟運動と第三世界の台頭 205

非同盟運動 第三世界の台頭と国際連合の変質

4 ヴェトナム戦争 210

発端 アメリカの介入 ヴェトナム戦争をめぐる国際関係

5 日本と反共アジア諸国の高度経済成長 215

日本の高度経済成長 反共開発主義諸国の経済発展

コラム7-1 毛沢東 195

コラム7-2 非同盟指導者群像 207

コラム7-3 開発主義指導者群像
コラム7-4 冷戦期の亡命者たち
219 217

第8章 多極化のなかの欧州統合と東方政策……………妹尾哲志…223

1 多極化と欧州統合の進展 223

ドゴールの挑戦からハーグ首脳会議へ プラハの春とデタントへの影響

2 東方政策の推進とデタントの「多国間化」 228

ブラント政権の東方政策の展開 東方政策への西側同盟国の不安 ヘルシンキ最終文書に

よるデタントの「多国間化」 経済デタントと東欧

3 「ヨーロッパの年」から先進国首脳会議へ 234

「ヨーロッパの年」と米欧関係の再編の試み 石油危機の東欧へのインパクト

4 デタントの陰りと欧州統合の再活性化 238

米ソデタントの陰りとヨーロッパ・デタント維持の試み 欧州悲観主義と統合再活性化に向

けた準備 分断克服への視座としてのデタントと欧州統合

コラム8-1 東方政策とエネルギー問題——ロシアへの依存の歴史的起源？…235

第9章 超大国デタントと冷戦秩序の変容……………山本 健…245

——表層の変化と深層の変化、一九六〇年代後半～一九七〇年代半ば——

1 超大国デタントと米中和解の背景 245

軍備管理の起源 ジョンソンのヴェトナム戦争 中ソ対立

2	ニクソン政権のデタント政策	248
	ニクソン・キッシンジャーの戦略	米ソ対話の停滞
		米中接近
3	米中ソ三角外交	252
	ニクソン訪中	ニクソン訪ソ
4	パリ和平協定とヴェトナム戦争の終結	257
	「適当な期間」	パリ和平協定とヴェトナム統一
5	中東の戦争と米ソ超大国デタントの陰り	260
	中東をめぐる米ソ対立	第四次中東戦争
		超大国デタントの足かせ
6	世界経済の変動と冷戦	264
	ブレトン・ウッズ体制の崩壊	石油危機
コラム9-1	日中国交正常化と日米・日ソ関係	253
コラム9-2	米中接近と南北朝鮮	255
ロングコラム4	冷戦期の国際連合	三須拓也

第IV部 グローバル化と冷戦の終焉——一九七〇年代後半～一九九〇年代初め

第10章	第三世界における危機（アフリカ、中南米、中東）	三須拓也
	——一九七〇年代後半～一九八〇年代初め——	273

1 人権の登場 273

反デタント派の伸長 人権の政治的含意

2 カーターの人権外交の影響 276

米ソ関係の揺らぎ 途上国との同盟関係の揺らぎ

3 アフリカの戦争と冷戦の転換 281

アンゴラ、ザイールと領土保全原則 「アフリカの角」と対アンゴラ隠密作成 ソ連の関

与とキューバ、中国

4 中東情勢とソ連のアフガニスタン侵攻 288

エジプト・イスラエル和平 イラン革命とその余波——大使館人質事件、イラン・イラク戦

争 アフガニスタン戦争から新冷戦へ

コラム10-1 アバルトヘイト 279

コラム10-2 アフリカ社会主義 287

第11章

レーガンの登場とグローバリ化による世界の変化……………細田晴子…298

——一九七〇年代後半～一九八〇年代半ば——

1 米ソ軍拡と技術競争 298

強いアメリカの「再生」を目指して レーガン政権と戦略的防衛構想(SDI) 経済の

グローバル化と技術革新 グローバリ化の進展とソ連の停滞

2 西欧の危機と再生 304

経済のグローバル化とG7サミット 新冷戦と欧州共同体(EC)第二次拡大 ケインズ

主義から新自由主義へ 環境と冷戦

第12章

ソ連・東欧圏の崩壊と冷戦の終焉

——一九八〇年代初め～一九九〇年代初め——

清水 聡……… 326

1 冷戦終焉へのグローバルな潮流

326

国際政治と冷戦の終焉

ヘルシンキ・プロセス

ポーランド危機

ゴルバチョフとソ連

指導部

ベレストロイカ

ゴルバチョフとレーガン——INF条約

らの撤退と中ソ関係の改善

天安門事件

2 東欧革命

337

ハンガリー——「ヨーロッパ・ピクニック計画」

ポーランド——円卓会議

東ドイツ——

ベルリンの壁の崩壊

チェコスロヴァキア——「ビロード革命」

ルーマニア——独裁者

の処刑

3 グローバル化する経済とアジアの政治——社会主義への期待の崩壊

310

国際国家日本へ

中国をめぐる環境の変化

カンボジア、ヴェトナム

朝鮮半島での冷

戦

東アジアの開発独裁と民主化

アジアと新自由主義

4 中南米とアフリカにおける新自由主義と冷戦終焉

316

中南米のグローバル化

中南米での軍政終了と構造調整

中米・カリブ諸国と冷戦

ア

フリカと構造調整政策

グローバリゼーションと国家と冷戦終焉

コラム11-1 ネオコン

299

コラム11-2 冷戦とオリンピック

307

コラム11-3 フォークランド紛争（マルビーナス戦争）

319

終章 ポスト冷戦史…………… 齋藤嘉臣…………… 365
——一九九〇年代以降の統合と分裂の世界——

3 国際政治とドイツ統一…………… 349

 ブッシュ政権と冷戦の終焉…………… 東西ドイツとドイツ統一…………… 戦勝四大国とドイツ統一

4 ソ連崩壊と冷戦の終焉…………… 358

 連邦内民族主義の高まりとエリツインの台頭…………… 新連邦条約と八月クーデタ…………… ソ連の解体

コラム12-1 シュタージと恐怖政治…………… 345

コラム12-2 NATO不拡大方針からウクライナ危機へ…………… 357

1 冷戦終結論争とポスト冷戦期の国際秩序論…………… 365

 冷戦勝利史観の台頭…………… 警告派の警鐘と世界の圏域化

2 統合と分裂の世界…………… 368

 新世界秩序と「新世代」の国連PKO…………… 統合する世界…………… 分裂する世界…………… 冷戦の遺産

 冷戦後のロシアと中国

3 二一世紀の世界…………… 374

 再び分裂する世界へ…………… ヨーロッパの拡大と分断…………… 欧米諸国と対峙するロシアと中国…………… 同

 時多発テロ事件とアフガニスタン戦争…………… 「イスラーム国」の伸長と衰退…………… 冷戦史の今日的

 意義

事項索引
人名索引